



—東地中海地域ニュース—

中東和平：ガザ支援船団とイスラエル軍の衝突に関する調査委員会
(6月3日付イスラエル各紙)

6月3日付イスラエル各紙は、今回の衝突事件に関する調査委員会の設置に向けた動向について報じている。概要は以下のとおり。

1. 2日、米国はイスラエルが独自に調査委員会を設置し、米国がこの調査を監視する案を提示した。同日まで訪米していたモルホ首相特使及びウジ・アラッド NSC 議長はデニス・ロス米国大統領中東担当顧問、ジョーンズ安全保障問題担当大統領補佐官らと会談した際、この案についても協議していた。(同日、カニングハム駐イスラエル米国大使からバラク国防相に対して、国連主導ではなく米国主導の国際調査委員会の設置を提案したとの報道もある。)
2. イスラエル首相府筋などによれば、ネタニヤフ首相は、衝突事件に関する調査委員会の議論は時期尚早と見ているが、主要案件を決定する7人の閣僚の中からは、イスラエルが率先して取り組まなければ国際社会の圧力に従わなければならない事態に陥るため、早急な決断が必要との意見がある。
3. 2日、調査委員会の設置に関して方針が定まらないイスラエル国内の動向に反して、国連人権委員会では、ガザ紛争に関するゴールドストーン調査委員会の設置と同様の国際調査委員会の設置を求める案が32カ国による賛成多数で決定されるなど国際社会における調査に向けた動きは進んでいる。